

まず、ミクロとマクロの概念を整理した。単純に対象の数を増やしていくだけではマクロではない。表はミクロとマクロ—自由と法則のマトリクスでできあがる部分がそれぞれ何を対象にしているかを表す。

ミクロ マクロ	非決定/自由、法則によらない	決定/必然、法則
自由	学問の外（個人の行動は自らの意思によってなされ、それを全体として見たときも何ら法則性は見えない）	脳（個別のシナプスの反応は法則に従うが、脳の作用は自由＝人間の想像力は無限）
必然	市場（個人は自由に動いているつもりだが、全体として見たときに何らかの法則に従っている）	シャルルの法則など（個別の反応は規則に従い、全体でも大きな規則に従う）

社会現象はこの第3象限（ミクロ非決定×マクロ決定）に入ることが多い。

たとえば自殺ならば、日本では毎年3万人が自殺で死ぬことがわかっているが、誰がいつ、どのように死ぬかはランダム（個人の自由）である。

今回は、統合の度合いについて解説した。今回はなんとなくわからないアノミーについて解説する。

離婚と自殺が正の相関を持つことは既知だった。通説は「性格欠陥者という大原因が、離婚や自殺の両方を起こす」というもの。デュルケムはこの通説を否定する。

デュルケムの反証

【データ】B4版資料④ 第57表 離婚と自殺の2点におけるヨーロッパ諸国の比較
イタリアとスイスを比較する。

⇒ 個人の性質というミクロな要素（性格欠陥）で説明するならば、スイスにはイタリアの7-15倍（自殺が7倍、離婚が15倍）いることになる。しかしイタリアとスイスは隣接する国で、文化を共有するはず。…おかしい。

デュルケムの仮説

★そもそも結婚は、性欲の制限なのか？ 性欲の解放なのか？

デュルケムは結婚を、欲望を制限する制度の一つと考える。

すると、離婚の多い社会というのは、欲望の制限が働いていない状態。

注) 結婚にたいする性欲抑制説はどこから来たか？

＝社会契約説の文脈の中で、制度は欲望を制限するもの、という認識がある。

たとえばホブズのリヴァイアサン、マルサスの人口論など

マルサスの人口論

食糧は等差級数的に、人間は等比級数的に増える。すると人口は食糧が許す範囲より明らかに多くなることもある → 食糧を求める抗争により、人口減。これを繰り返す。

しかし、人間は必ずしも争うわけではない。解決策として制度がある。

制度

財産：私有財産。生産財（田畑、家畜など）に対するルール 誰が所有するか

家族：収穫物を消費する際に働くルール 誰がメンバーか

⇒ 秩序ある社会は、家族単位で機能する

制度は、無秩序な争いを避けるためにある。

これは、マルクスが徹底的に批判したブルジョアの秩序！！！！

では、欲望の抑制が効いていないと自殺が増えるとはどういうことか。

つまり、アノミーが起こっているときには何がおきているのか。

このとき起きているのは、分限を守っている生活より以上の何かを求める という状態
何かを過剰に求めれば必然的に絶望や挫折感を持つ。これがアノミー的な自殺。

アノミー的自殺とは、熱い自殺。急激な社会変動の中で、何かを求め、挫折して死ぬ。無限性の病とも言う。

cf. 冷たい自殺…自己本位的自殺のこと

アノミー的自殺の逆 宿命自殺

自己の行く先が完全に見えてしまい、それに絶望して死ぬ状態。
規制の強さに共通するのは、『絶望感』

統合と規制という2つの社会的力の交錯

これは、二重写しのU字（下に凸のグラフが2つ重なったもの）に表すことが可能。

統合も規制も、強すぎても弱すぎても、ともに自殺の増加を示す。

この講義のテーマ（目的）

相互作用という中身の蓄積（ミクロ）ではなく、
相互作用が起こる場としての磁場（マクロ）としての社会を主題化する（気づく）こと。

デュルケムは、社会というものの存在を自殺から見ようとした。

自殺=f（社会の状態）=f（規制、統合）

つまり、自殺は社会の状態の関数であり、社会の状態は、規制と統合によって表現できるのではないかと試みた。これが二重写しのU字の中身。

自殺論のエッセンス

社会の状態は定義可能であり、自殺がそれによって導ける

デュルケムの社会=社会法則

（cf. この講義での 社会=相互作用の場の性質）

社会があると言えるのは社会法則があるからで、社会法則を出せるのは社会学

デュルケムがしたことは、「社会、社会法則、社会学」の三位一体での実証

（ただし、三位一体でしか言えなかった、とも考えられる）

次回への導入 自殺論批判

デュルケムは実証主義。自然科学的な社会学を求める人にとって魅力的。

cf. ウェーバー：実証的ではない

デュルケムの話は十分妥当だと考えられる。

日本にあてはめると…

バブルまでの1万人/年 アノミー、現在の3万人/年 アノミー+自己本位
しかし、妥当なことが逆に怪しくないか？

ダグラスの批判

phenomenologyの立場に立っての批判（内側からの批判）

「見てきたものではないことは言えるのか？」

アトキンソンの批判

エスノメソドロジーを使ってデュルケムを「脱構築」した
方法論に対する根本的な批判